

国史跡 小早川氏城跡のうち三原城跡

指定 昭和32年 館町・本町・城町

守り・伝える・文化財

24

最終回



▲天主台跡。北東稜の算木積。北面と東・西面では石の大きさに差をみることができます
 ▼船入櫓跡。角の下に見られる岩礁は、築城以前からのものです

三原城は瀬戸内海の水軍を掌握していた小早川隆景によって永禄10年(1567年)から三原湾に浮かぶ大島と小島をつないで築城を開始した平城です。近世には福島氏そして浅野氏が在城しました。天正10年(1582年)頃と文禄4年(1595年)から翌、慶長元年にかけての大掛かりな工事で城としての規模・形態が整えられ、慶長年間(1596年～1615年)には既に本丸・二の丸・三の丸・東大手曲輪・西大手曲輪に、32の櫓と14の門が備わっていました。

高さ約15mの天主台の北東稜の石積みは長い石を左右交互に組み合わせ、積み重ねた算木積となっており、福島時代から浅野時代に修復されたものと考えられます。一方、北西稜と南西稜は整然とした算木積になっておらず、縦石や巨石をはめ込むなど古式の様相を示しており、小早川時代の天正頃に築かれたものと考えられます。城は南東部に船入の設備を設けるなど城郭に軍港の機能を兼ね備え、海に浮かんでいるように見えるところから浮城とも呼ばれました。隣り合う船入櫓跡の石垣は小島に築かれたものと思われ、南東隅の下部には花崗岩の岩礁が見られます。

明治27年(1894年)に山陽鉄道が本丸を貫き三原駅が設けられ、その後、多くの石垣も取り壊されて、現在では駅に隣接する天主台跡とそれをめぐる濠のほか、本丸中門跡、船入跡と船入櫓跡が残されています。

春は区切りと旅立ちの季節です。三原にかえる人、離れるひと。昔むした石垣や満開の桜に迎えられ、送られて城跡を眺めたことでしょうか。城のある風景にそれぞれの感慨と郷愁はひとしおと思えます。2年間、紙幅で三原市の文化財の一部を紹介させていただき、ありがとうございました。ご覧いただき、ありがとうございます。

問い合わせ先
生涯学習課 ☎0848④2137

県立広島大学三原キャンパスツアー

とき 10日(火) 9時30分～12時

内容 健康やつさ体操体験、キャンパス体験、食堂体験(希望者のみなど)

定員 30人(申し込み先着順)

参加費 無料(昼食希望者は200円)

申し込み 電話、ファクス、またはEメールで、名前、連絡先、所属学校名や勤務先、昼食の希望の有無を

県立広島大学三原キャンパス地域連携センター ☎0848⑥1120 FAX 0848⑥1134 mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp

行政書士 一日無料相談会

とき 28日(土) 10時～16時

ところ フジグラン三原円一町一丁目

内容 相続権利、遺言、成年後見、農地法、税務、法人設立、車の登録など

問い合わせ先 県行政書士会

三原支部 下西さん ☎0848⑧0201

今月の夜間収納窓口(19時まで)

12日(木)・26日(木)

あ・と・が・き

今月で文化財シリーズは終了し、4月号から、地域でまちづくりを進める活動団体などの紹介と、宇根山天文台の季節の星の話題を連載します。お楽しみに！▼広島県広報コンクールの組写真の部で、最優秀賞に選ばれました。

祭りの熱気、躍動感、三原の暑い夏を伝えたいという思いを込め、3日間の祭りのようすを2ページにわたって紹介しました。組写真が一つの作品として形になったのは、皆さんの笑顔が最高に輝いていたからです。祭りを盛り上げるために関わる多くの人の力も忘れてはいけないと思います。これから広報みはらは、皆さんの笑顔をお届けします。



▲9月号カメラ散歩

三原市の人口

(1月31日現在)

世帯数 43,912世帯 (+230)

人口 104,074人 (-569)

男 49,964人 (-291)

女 54,110人 (-278)

()内は前年同月との比較

資源保護のため「広報みはら」は再生紙および大豆インクを使用しています。

編集・発行／三原市秘書広報課 (〒723-8601 広島県三原市港町三丁目5番1号 ☎0848⑦6007) 毎月1日発行

「広報みはら」は市役所1階ロビーと各支所、サン・シープラザとうきしろロビーの窓口にも備えています。点字版や録音テープの「広報みはら」も発行しています。

問い合わせは秘書広報課へ。